（地域情報の発信の強化－Ｎ－２）

多様な主体（教育機関、地域団体、企業、行政等）が連携したデータ活用事例 ～和歌山ローカルナレッジ～ （㈱紀伊民報、田辺高校、田辺観光協会、田辺市熊野ツーリズムビューロー、南紀みらい㈱、和歌山県田辺市、和歌山県ほか）

〔概要〕

田辺市は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」等の観光資源を有している一方、人口減少や少子高齢化、また大地震による津波対策の課題がある。

田辺市に本社を置く㈱紀伊民報は、和歌山県の紀南地域を対象とした新聞社であり、田辺市の自然、歴史、文化、特産品等を活かした観光情報、生活情報を発信している。また、田辺高校は地域と連携した総合学習や防災教育に重点を置いている。

本プロジェクトは、田辺高校と地域コミュニティが連携し、総合学習の一環として地域情報をデータ化するマッピングパーティーを実施し、地域の歴史、文化、地理、観光等の情報を集約する。この活動を通じて、若者の定住促進、防災意識の向上などを図り、また、集約されたデータを利用して地域の情報発信を強化し、観光客の誘客や県外からの移住を促進することを目的とする。

〔コラム〕

⑴　地域情報のデータ化

田辺高校と地域コミュニティ（観光協会、民間事業者、行政等）が連携して総合学習の一環として地域情報をデータ化するマッピングパーティー等により地域の歴史、文化、地理、観光資源等の情報を収集する。

今後、地域経済分析システム（RESAS）を活用し地域を分析することで客観的な情報を併せて収集する。

⑵　データベース（和歌山ローカルナレッジ）へのデータ集約

収集した情報をLocalWikiやOpenStreetMap等のオープンなデータ利用が可能な場所に書き込み、それを基に㈱紀伊民報が和歌山ローカルナレッジに集約する。

⑶　地域の情報発信基盤

高校生及び地域コミュニティにより作成されたLocalWikiとOpenStreetMap等のデータを組み合わせ、他の地域情報ともマッシュアップさせることが可能な基盤を活用する。

⑷　データの活用

収集したデータを基に作成された観光サイトやマップ等を田辺高校の総合学習の教材として活用することで、田辺高校を核として「ローカルな知」を集積、伝承し、地域学習に役立てる。また、情報発信力を高め、海外を含め地域外との交流を活性化する。

また、観光サイトにレコメンド機能やリアルタイム情報を追加することにより、主に観光客を対象としてパーソナライズに対応した情報提供を行うことでインバウンド対策を強化する。

和歌山ローカルナレッジのデータや行政のオープンデータを活用した公共サービスに関連するアプ

リ等を作成し、住民生活の質を向上する。

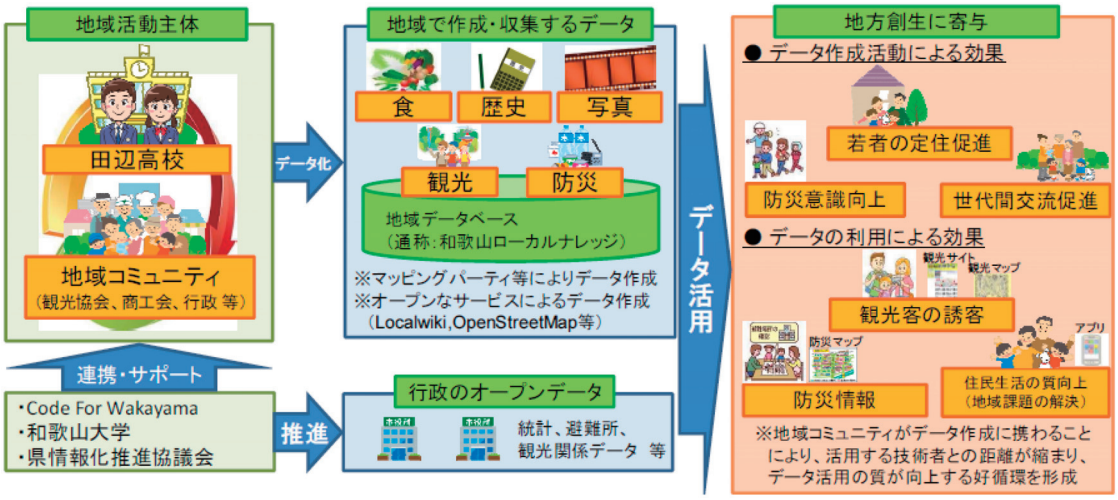
⑸　特徴

○　行政、企業だけではなく、教育機関（田辺高校）、地域団体（観光、商工等）の多様な主体が参加したプロジェクト

○　ICT技術者の多寡に依存しない形で実現可能な地方創生データ活用モデル

○　高校の授業の一環としての活用であること、及び地域メディアが主体的にデータを活用することによる高い継続可能性

○　地元自治体だけではなく、和歌山県及び和歌山県情報化推進協議会という県域団体が参画することにより、県内の他市町村への普及展開、県外も含めた活用可能性の高いモデル



⑹　期待される効果

○　高校生が地域コミュニティと連携して、地域を知り、地域情報をデータ化する取組を通じて、地元への愛着が醸成され、若者の定住促進に貢献するとともに、多様な年代の者がマッピングパーティー等の取材活動を通じて交流することにより地域コミュニティの強化が図られる

○　地域コミュニティが強化されることは、地産地消の推進や災害時連携の強化にもつながる

○　和歌山ローカルナレッジに集約される情報は、地域の主体が取材編集した地域独自コンテンツであり、情報発信力が強化され、地域の観光や防災対応力の強化に貢献する

○　和歌山ローカルナレッジやオープンデータ等を活用した新たなアプリが作られることは、地域における課題解決による住民生活の質の向上につながる

⑺　実施体制

田辺高校、㈱紀伊民報、田辺観光協会、田辺市熊野ツーリズムビューロー、南紀みらい㈱、田辺市、和歌山県、和歌山県情報化推進協議会

〔問い合わせ先〕

・株式会社　紀伊民報　マルチメディア事業部　上仲　輝幸
・電話番号：0739－26－7171
・e-mail：t-kmnk@agara.co.jp